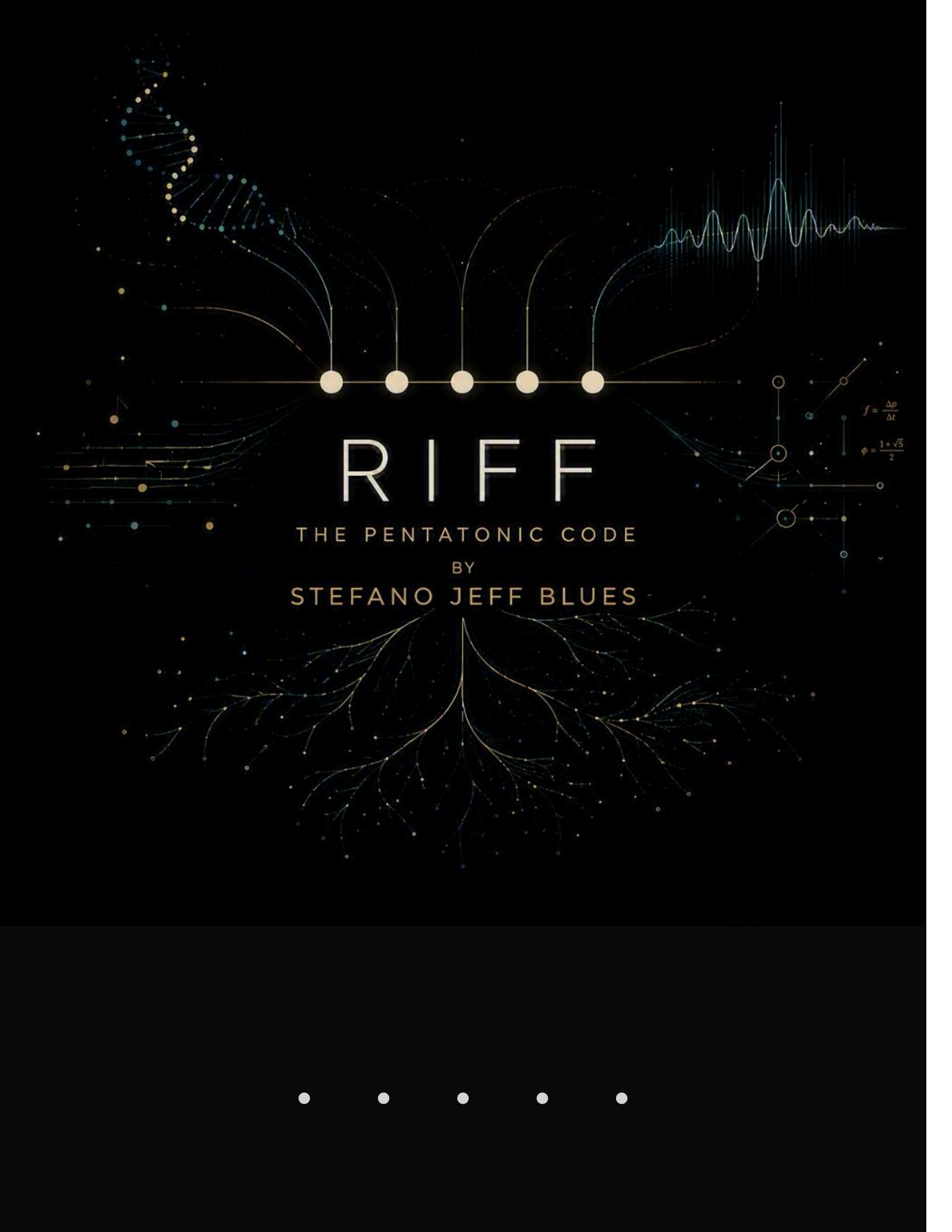


The background is a dark, textured space filled with various abstract elements. At the top left, a DNA double helix structure is composed of blue and yellow dots connected by lines. In the top right, a complex waveform, resembling a musical note or a signal, is drawn in light blue. A horizontal line with five yellow circular nodes spans the width of the page, with several curved lines arching upwards from these nodes. Below this line, the title 'RIFF' is written in large, white, serif capital letters. Underneath the title, the subtitle 'THE PENTATONIC CODE' and the author's name 'BY STEFANO JEFF BLUES' are written in smaller, yellow, sans-serif capital letters. To the right of the text, there are some mathematical formulas: $f = \frac{\Delta p}{\Delta t}$ and $\phi = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$. At the bottom of the page, there is a horizontal line with five white circular nodes, and below that, a series of five white dots. The overall aesthetic is a blend of science, music, and mathematics.

RIFF

THE PENTATONIC CODE

BY

STEFANO JEFF BLUES



コンセプト

「RIFF」は、音楽の複雑さの背後にきわめて単純なものが存在するという考えから生まれた。まったく異なる世界を生みだせる、小さな音の核。その核がペントトニックである。

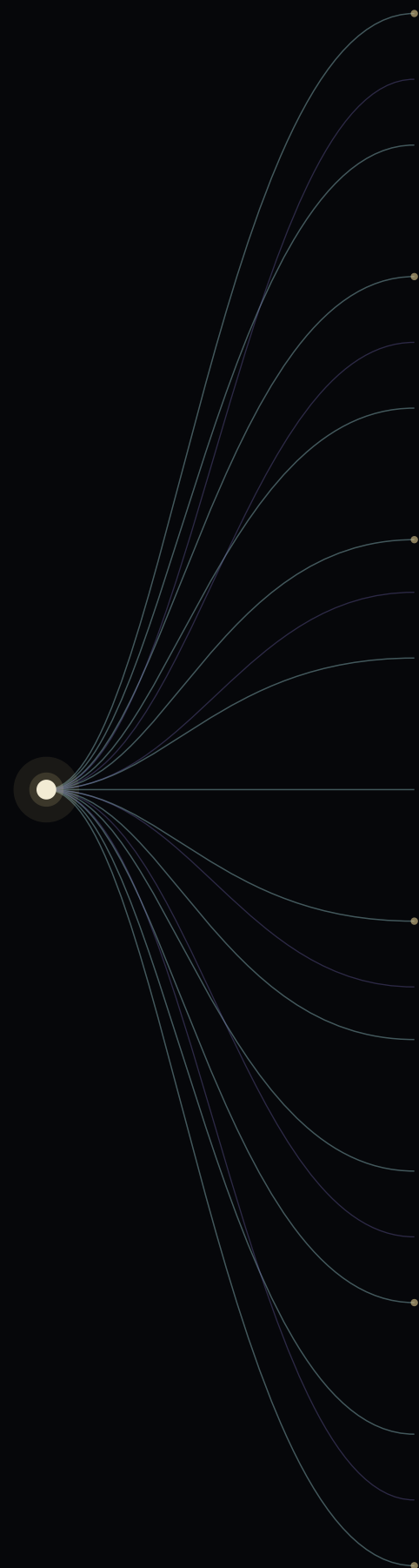
五つの音はこのアルバムの音のDNAであり、ジャズ、ブルース、グルーヴ、インプロヴィゼーションを貫く原材料だ。リフはそのDNAが姿を現す形である。短く、聞き分けられ、身体的で、リズムカルだ。

だが、コードは静止したままではない。

ペントニックの単純さのまわりには、はるかに両義的な和声の宇宙が動いている。ディミニッシュ・コード、減七の和音、半音階、緊張、そして見慣れない和声の色彩。この対比こそが「RIFF」の核心である。

旋律は単純な言葉を話しつつけながら、その下で和声は音の意味を変えていく。同じフレーズがブルースに聞こえ、次に神秘的に、次にほとんど異質に響きながらも、自らの正体を失わない。

コードは同じままだ。変わるのは、その周りに私たちが築く世界である。





音のDNAとしてのペントニック

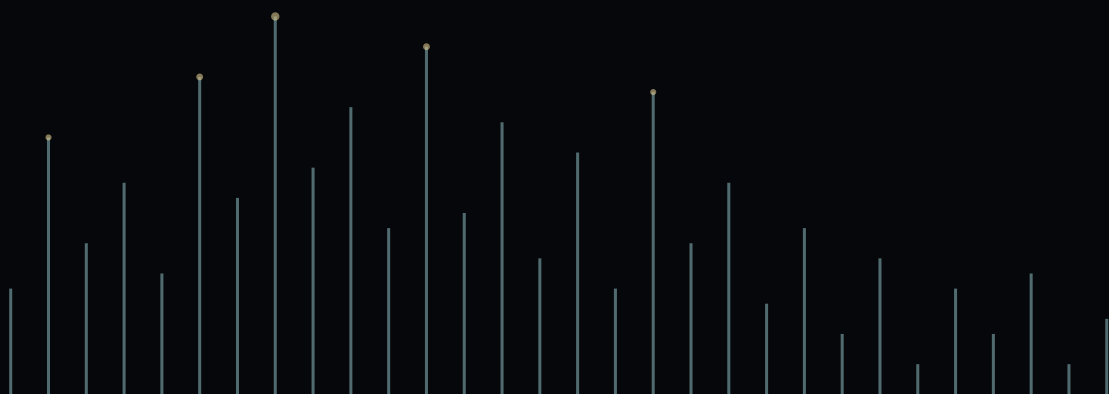
ペントニックは、単にその上で即興するための音階ではない。それは音のDNAである。素朴で、本能的で、ほとんど太古から続く材料だ。その直接的な性格は「RIFF」の音楽のもっとも身体的な部分を担っている。身ぶり、グルーヴ、リズム、そして記憶に残るフレーズだ。

いっぽう、より洗練された和声は変容を担う。ディミニッシュ・コードと和声的な緊張は、不安定さと運動と両義性をもたらす。あの五つの音を別の領域へ運び、同じ旋律の素材に新しい色を与える。この音楽的な高まりと沈み、緊張と解放の交替こそが情感を生む。

同じ物を異なる光のもとで見るようなものだ。物は変わらない。変わるのは、私たちが見るものだ。

そしてここで、ブルースとジャズは完全に共存できる。ブルースは土のような、直接的で身体的な何かを保ちつづけ、ジャズは絶えず和声の扉を開く。ペントニックは、この二つの世界の接点になる。

五つの音は限界ではなく、可能性である。



アルバムの構造

R I F F 01

R I F F 02

R I F F 03

R I F F 04

R I F F 05

R I F F 06

R I F F 07

R I F F 08

R I F F 09

R I F F 10

R I F F 11

R I F F 12

どの曲も同じコードの異なる現れである。作品そのものがその証明だ。

これらの曲は、ひとつの音楽実験の、分類された断片である。

何を想像すべきかを語ることはない。

それは音楽にまかされている。

シノプシス

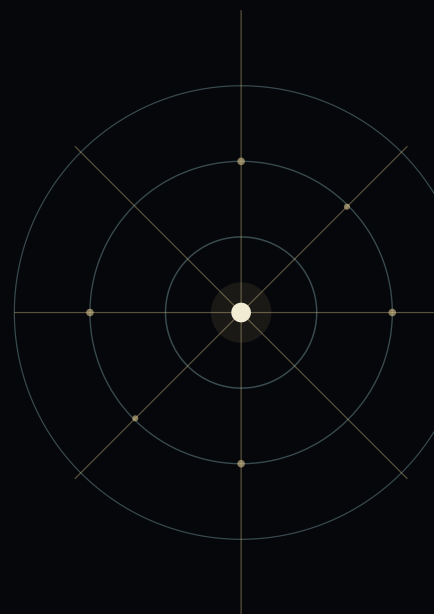
「RIFF - THE PENTATONIC CODE」は、無限の変容を生みだしうる基本的な音楽のコードという考えを探る。

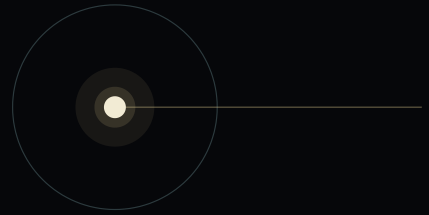
アルバムの中心にあるのはペントニックであり、単なる音階ではなく音のDNAとして捉えられている。リフ、グルーヴ、ブルース、インプロヴィゼーションが生まれる五つの本質的な音である。

この核のまわりには、半音階、ディミニッシュ・コード、緊張、見慣れない色彩からなる、より不安で洗練された和声の風景が広がる。旋律線の単純さは、その正体を消すことなく知覚を絶えず変えていく和声と出会う。

どの RIFF も同じコードの異なる現れである。

追うべき物語はなく、どの曲にも意味が押しつけられてはいない。語るのは音楽そのものであり、自らの素材の変化を語る。五つの音が異なる和声の世界を渡りながら、頑固に自分自身でありつづける。





五つの音がコードを守る。ほかの
すべては変容である。

R I F F T H E P E N T A T O N I C C O D E

音楽 Stefano Jeff Blues

© 2026 Stefano Jeff Blues. All rights reserved.